

マラウイ月報(2018年5月)

主な出来事

【内政】

- 2018/2019年度予算国会が開幕
- メイズゲート事件:チャポンダ元農業大臣が不起訴処分に

【外交】

- 新ボツワナ大統領のマラウイ訪問

【経済】

- 2018/19年度予算案の発表
- 経常収支赤字の縮小

【開発協力】

- IMF が新規 ECF を承認

【内政】

- ・ 2018/2019年度予算国会が開幕

4日、予算国会が開幕し、ムタリカ大統領が施政演説を行った。演説の中でムタリカ大統領は、インフレ率の改善や GDP 成長率の2.4%から4%への拡大等、マクロ経済の各種指標を列挙し、現政権の政策の成果により経済が回復していると強調した。停電の問題についても、過去の政権によって無視されてきた分野であるものの、ムタリカ政権では引き続き改善を目指して取り組むと言及した。野党は、数字を並べて経済の回復を語っているが、実際の国民の生活は改善していないと批判した。

ムタリカ大統領の演説中、野党からブーイングの声があがり、傍聴席からそれをかき消そうとし民主進歩党(DPP)青年団らも声をあげるという事態になり、ムソウォヤ国会議長が静粛を求めても収集がつかず、大統領が10分程度演説を中止する事態となった。結果として DPP 青年団はジェファリーDPP 事務局長の指示のもと、国会から退場させられた。タイムズ社記者が退場する青年団の様子を撮影していたところ、青年団メンバーは写真の削除を求めたが、同記者がこれを拒否。拒否されたことに腹を立てた青年団が同記者に暴行を加えるという事態も発生した。警察がいたにも関わらず起きた今回の事件に、ンダンガ南部アフリカ報道協会マラウイ支部(MISA Malawi)代表は、報道の自由への脅威だとし、DPP 青年団による行為を強く非難するとともに、警察に対しては暴行を行った者を逮捕するよう求めた。チリマ副大統領は声明で政治的・宗教的意見について個人が脅迫されるようなことはあってはならず民主主義国マラウイとして今回の暴力行為は到底認められないと批判した。また、ダウシ政府広報官及び情報・通信技術大臣も、今回の事件につき「受け入れられるものではない」とコメントしている。(5日 ネーション紙1~3面 デイリータイムズ紙1, 3面)

- ・ メイズゲート事件:チャポンダ元農業大臣が不起訴処分に

18日、チャポンダ元農業大臣とタユブ・トランスグローブ社(当館注:当地メイズ供給会社)社長がメイズゲート事件(当館注:ザンビアからのメイズ輸入に係る汚職事件)に関し審議されるべき理由はないと、ゾンバ県裁判所が判断した。反汚職局(ACB)は次の行動をとる前に、不起訴に至った判断理由を検討したいと発表した。国会の法務委員会は判断に納得がいかないとして、ニレンダ最高裁判所長官を召喚し、不起訴判断についての説明を求める計画があると発表したが、司法の判断に介入することは三権分立に触れ、国会の委員会の役割ではないと法律専門家は批判している。

マテンバ ACB 局長は、外貨保有及び ACB に誤報を与えたという2件に関しては高等裁判所に上訴する準備を進めると述べた。残り1件の、チャポンダ元農業大臣が農業開発販売公社(ADMARC)のムルンベ元 CEO にトランスグローブ社と契約を行うよう指示した件に関しては、県裁判所に提出した証拠以外の新しい証拠はないため、上訴はしないとした。(21日ネーション紙2~4面, 22日ネーション紙1, 2面, 30日デイリータイムズ紙1, 3面)

・ 民主進歩党(DPP):大統領派と副大統領派の分裂

先月、ビング・ワ・ムタリカ元大統領(注:現ムタリカ大統領の兄)の妻であるカリスト・ムタリカ氏がチリマ副大統領を大統領候補として推薦すると公表したことを皮切りに、DPP 内から副大統領支持が広がっている件につき(当館注:当館4月月報参照)、DPP の大統領派と副大統領派の分裂に関する動向を下記にまとめた。

(1)副大統領派の主な動き

チリマ副大統領支持を表明したムベウエ DPP 北部地域副委員長は DPP より免職されたと報道されていることに対し、5日以内に免職を取り消さなければ、DPP を名誉毀損で起訴すると発表した。ムベウエ氏は、DPP より正式な通報等は受け取っておらず、DPP 綱領に沿った手続きも行われていないと主張している。17日には、同北部地域副委員長が迎える形で、Aford の北部地域副委員長であるムカンダウレ氏がチリマ氏支持派として DPP に加盟した。これにより、DPP 内でチリマ副大統領支持を公言したのは5名となった(カリアティ・ムランジェ西選挙区議員、ンガランデ青年団局長、マサングィ・ブランタイヤ市東選挙区議員、カリンド・ムランジェ南選挙区議員、ングムヤ・ブランタイヤ市南選挙区議員)。ンガランデ青年局長は大統領宛の手紙の中で、既にチリマ副大統領支持を表明している上記5名の他にも、カサイラ広報官やサンガラ議員、チウミア大臣、クンパルメ元保健大臣、ンダウ議員(注:右議員は21日に支持を表明)も表向きでは大統領支持だが裏では副大統領支持だと述べた。(1日ネーション紙2, 4面, 18日ネーション紙4面, 21日デイリータイムズ紙1, 3面)

(2)大統領派の支持表明

次期大統領選挙の候補者としてムタリカ大統領を支持する表明も各方面で行われている。13日、ムタリカ大統領はブランタイヤサンジカ宮殿に国立及び私立大学の DPP 青年団の学生らを招待し、昼食会を開いた。25の大学のうち8つの大学から(マラウイ大学チャンセラール校・ポリテクニク校・医学部、ドマシ教員養成校、マラウイ科学技術大学(MUST)、ムランジェミッション大学、マ

ラウイ健康科学大学、ブランタイヤ国際大学)1200名の学生が参加し、ムタリカ大統領支持を宣言した。ムタリカ大統領は18歳以下である学生らに、ビールを振る舞ったほか、2千4百万クワチャ(一人2万クワチャ)を配布したと報じられている。これに対し、17日、「Concerned Students from Public Universities」という大学生のグループが、サンジカ宮殿で行われた承認を認めない旨の声明を発表し、授業料を引き上げる等我々にとって害のある教育システム改革を実行しているリーダーを支持することは考えられないと述べた。なお、サンジカ宮殿に行った学生のグループは、チリマ副大統領が大統領になるための策略をこれまで巧みに実施してきたと批判する内容の書簡を副大統領に送付している。(16日ネーション紙1～3面、18日デイリータイムズ紙1、3面)

また、16日、全86名のDPP議員のうち51名がムタリカ候補承諾を表明した。これは、15日、チャポンダ南部地域副委員長及びジェフリー事務局長が、DPP議員33名と面会し、ムタリカ大統領を候補者として承認するよう圧力をかけたことによると報じられている。上記2名は、同会議が実施されたことは認めたが、これはチャンボ・マチンガ選挙区議員が音頭をとって行われたもので、自分たちは招待されたただけだと主張している。(16日デイリータイムズ紙1、3面)

(3)チリマ副大統領の動向

なお、沈黙を続けるチリマ副大統領は、26日、ンチシ県で開かれたカトリック教会のイベントにて演説を行い、「汚職と盗みがこの国にはびこっており、状況は悪化する一方。耐えきれない状況だと考えて人々は別の道を選ぶのである。」と発言し、メディアは、この発言を初めて党内紛争に関する言及だと報じており、汚職が改善しないと見込まれればDPPから去ると発言したと解釈している。(27日デイリータイムズ紙1、3面)

22日、ゴンドウェ大臣、テムベヌ大臣、ムサカ大臣がチリマ副大統領の自宅を訪問し、現在の党内紛争について話し合ったと報道されている。面会の中で、同副大統領はチリマ支持派の動きを押しやるように要求されたがそれを拒否し、また、次期総選挙の副大統領候補となることも拒否したと言われている。チリマ副大統領は3大臣に対し、大統領との面会を希望し、28日、それが実現し大統領と副大統領が面会したと報じられたが、何が話し合われたかは公にされていない。(30日ネーション紙1～3面、デイリータイムズ紙1、3面)

(4)大統領の発言

31日、ムタリカ大統領はリラングウェーチンガレーマチンガロードの2回目の起工式典に出席した際の演説の中で、チリマ派が6月の党大会延期を求め裁判所の差し止め請求を行っているとの噂に言及し、臆病な人々の集まりでありそのような動きはばかばかしいと批判した。同日、チリマ派は会見を開き、カリアティ・ムランジェ西選挙区選出議員は、チリマ氏を改めて大統領候補者にたてると宣言した。また、党大会延期の差し止め請求を行う予定はなく、党大会でチリマ氏が選ばれることに自信を見せた。(6月1日ネーション紙1～4面、デイリータイムズ紙1～3面)

(5)党大会

DPPは2013年以降、一度も全国統治委員会(National Governing Council:NGC)を開催しておらず、党大会の日程も決まっていない状況である。サンガ北部地域委員長は、22日、ムハンゴ運輸・公共事業大臣が橋建設のローンチング式典に出席した際、DPPの党大会においてチリマ氏

支持の党員は会場に入ることを禁じると述べた。一方、ブランタイヤ県のDPP党員50名は臨時集会を開き、党幹部に対し党大会を開き次期選挙に向けた候補者を決定するよう求めることで一致した。(24日デイリータイムズ紙5面)

30日、ジェファリーDPP 事務局長は党大会を6月中に開催すると発表した。NGC 委員の任期は今年3月で終了しており、まずはムタリカ大統領が NGC の開催を行い、その上で新たな NGC の委員が党大会の日程を発表すべきと批判するものもある。なお、DPP 綱領には、党大会は2年ごとの開催が義務づけられており、全国幹部委員会のメンバーの任期も4月で終了している。(31日ネーション紙1～3面)

・ マラウイ議会党(MCP)党大会開催

5月11—14日に MCP は党大会を開催し、チャクウェラ党首、シディック・ミア第一副党首が選出された。12日までに行われた選挙の結果では、中央地域の党員が他地域の党員を抑えて7割のポジションを独占する形となったため、残り3割のポジションについては地域バランスを調整するため、選挙ではなくチャクウェラ党首及び各地域委員長6名による推薦で決定されることとなった。なお、停職処分を受けたムソウォヤ第一副党首、カリウオ事務局長、カンディエロ国際事情局長及びカウダ第一副事務局長、また解雇処分を受けたカブウィラ広報事務局長は、裁判所の差し止め命令により、党が復職を決定したが、結局党大会を欠席し現職のポジションを自動的に失うこととなった。

また、党大会期間中、党の綱領を改定し、党から脱退したと理解される具体的行動を明記するとともに、党の4つの信条(忠誠、服従、団結、規律)に反する行為を行ったという明示的な証拠がある場合は、党大会で選出された党員を解雇または停職処分にできる権限を明記した。

なお、ミア副党首は、27日にチクワワ県で開かれた政治集会にて、チクワワ県ンコンベジ選挙区国会議員選挙への出馬を正式に表明した。同選挙区における現職議員はDPPのマロラ氏で、ミア副党首はマロラ議員は選挙区開発に貢献できていないと業績を批判している。(12日ネーション紙1, 3面 デイリータイムズ紙3面, 14日ネーション紙1～3面 デイリータイムズ紙1, 3面, 28日デイリータイムズ紙1, 3面)

・ バンダ・人民党(PP)党首のキャッシュゲート事件関与について

4月末にマラウイに帰国したジョイス・バンダ PP 党首は、大統領時代のキャッシュゲート事件につき自らの関与を否定する発言をしている(当館4月月報参照)。これに対し、ACB は前大統領のバンダ氏のキャッシュゲート事件への関与につき、まだ調査は終了しておらず、未関与を主張していることは間違っていると述べた。キャッシュゲート事件で既に起訴されている3名からもバンダ氏が関与したという証言があるともコメントしている。なお、PP の全国幹部委員会(NEC)は5月第一週開催予定で次期総選挙につき話し合う。(5月2日ネーション紙2, 3面)

・ 選挙費用75億クワチャが不足

マラウイ選挙委員会(MEC)は総選挙に必要な費用は計550億クワチャと発表しているが、2018/19年度の予算案では315億クワチャのみが計上された。また、ドナー等政府以外からの資金については詳細の公表を現時点で控えるとしているが、このままでは結果として75億クワチャの不足が見込まれると MEC は発表している。選挙運営資金の確保は自由で公平な選挙を行うために不可欠であり、野党代表のチャクウェラ MCP 党首は、与党が選挙プロセスを統制し MEC の機能不全を狙った方策だと批判している。(23日ネーション紙1~3面 デイリータイムズ紙1, 2面)

・ MEC は有権者登録法制定を求める

MEC は6月末から有権者登録を開始する予定であり、選挙プロセスに遅れがでないよう、電子バイオメトリック有権者登録法(the Electronic Bio-metric Voter Registration (EBVR) Bill)の国会での迅速な法案可決を望んでいる。この法案は国民IDカードを有権者登録の際の唯一の身分証明に制定することを目的としており、同一人物が複数のIDを使用した不正重複登録の防止や、登録プロセスの費用及び時間の効率化(注:以前はIDを手作業で確認し有権者カードを別個に発行していたが、国民IDカードを使用すれば、バーコードを読み込み、登録済を意味するステッカーを貼るだけの作業となる)が期待できる。(23日デイリータイムズ紙2面)

・ 国家安全保障評議会(National Security Council: NSC)のローチング

3月の国家安全保障政策(National Security Policy)のローチングに引き続き、正式にNSCの立ち上げが発表され、ムタリカ大統領を議長、チリマ副大統領を副議長とし、その他メンバーとして、外務・国際協力大臣、内務・国内保安大臣、国防副大臣、軍司令官、警察長官、国家諜報局局长及び司法長官からなるメンバーが発表された。(2日、ネーション紙3面)

【外交】

・ 新ボツワナ大統領のマラウイ訪問

7日、マシシ・新ボツワナ大統領がマラウイを訪問し、ブランタイヤにてムタリカ大統領と会談した。会談の中で、良好な二国間関係を今後も維持し、共同恒久協力委員会(JPCC)をスピード感をもって進めるよう両国外相に要請するとともに、鉱業分野におけるマラウイへの協力についても言及した。具体的には、ボツワナの鉱業分野の成功は、国益を保護するための法制度が整備され、ガバナンスが確保されていることが理由であり、マラウイの鉱業分野を経済成長への柱へと成長させる手助けをしたいと述べた。

これに対し、ムタリカ大統領は、カロンガにあるパラディン・アフリカ社所有のカエレケラ鉱山はマラウイの国益になっておらず、世界で最も優れた鉱山法を制定しているボツワナから学びたいと述べた。実際、2014/2015年度の採掘産業透明性イニシアティブ(EITI)レポートによると、2014年に予定されていた8億クワチャの税収が実現しておらず、2017年9月にマラウイ政府は9つの鉱業企業に対し、約9億クワチャの鉱山使用料等の経費及びロイヤリティの未払いや不良債権を理由にライセンスを終了させる意向がある旨通達している。(8日ネーション紙3, 4面 デイリー

タイムズ紙3面)

・ **米国ネブラスカ州ノーフォーク市長がブランタイヤ市を訪問**

ジョシュ・モーニング(Josh Moenning)ノーフォーク市長は7日間の日程でブランタイヤを訪問し、30日にブランタイヤ市と MOU を締結した。ンディポ・ブランタイヤ市長は、ノーフォーク市は農業が盛んであり、マラウイは農業技術に関する知識とスキルを学ぶことができると話した。また、モーニング・ノーフォーク市長は、文化交流の活発化に期待すると述べた。なお、4月24日にノーフォーク市において姉妹都市締結の署名式を行った。ノーフォーク市がアフリカの市と姉妹締結を結ぶのはこれが初めてである。(31日デイリータイムズ紙2面)

【経済・経済開発協力】

・ **2018/2019年度国家予算案を発表**

18日、国会に2018/19年度予算案が提出され、ゴンドウェ財務・経済計画・開発大臣により予算演説が行われた。

歳出総額は、1兆5,040億クワチャ(対GDP比28.2%)。内、開発支出は、3,917億クワチャ(対GDP比7.3%、全体予算の26%)、経常支出が1兆1,045億クワチャ(対GDP比20.7%)、純借入が80億クワチャ。歳入総額は、ドナー援助(無償資金)含め、1兆2,610億クワチャ(対GDP比23.6%)。内訳は、国内歳入は1兆520億クワチャ(対GDP比19.7%、税収が9,400億クワチャ、税外収入が1,120億クワチャ)、ドナー援助は世界銀行からの600億クワチャの資金援助を含む2,090億クワチャ(対GDP比3.9%)。財政赤字の2,420億クワチャ(対GDP比4.5%)は、国外借入660億クワチャ、国内借入1,760億クワチャで穴埋めする。2017年12月時点の対外債務の総額は20.21億米ドル。主な内訳はIDA(42.56%)で、次いでADF(14.36%)、中国政府(11.70%)、IMF(11.08%)、インド(7.03%)の順となる。同時点の国内債務の総額は1兆2,850億クワチャで、債権者は中央銀行(58%)、銀行以外の金融機関(23%)、商業銀行(19%)である。

本予算案はムタリカ大統領の施政演説及びマラウイ成長開発戦略(MGDS)Ⅲで示された、農業・灌漑・気候変動、エネルギー、教育、保健、運輸・通信・インフラの分野を優先した予算配分となっている。農業分野には806億クワチャが充てられ、政府による灌漑・水開発事業を実施する。運輸・通信・インフラ分野は892億クワチャが充てられ、運輸・公共事業省による国家輸送マスタープランに基づき進められる。うち690億クワチャは道路整備に用いられる。教育分野においては、教育環境の質の向上、施設・備品の整備等のため449億クワチャを、保健分野にはファロンベ県病院、ドマシコミュニティ病院、及びリロングウェにガンセンター建設のため315億クワチャが充てられる。

野党代表のチャクウェラMCP党首は、目指すゴールが曖昧であり、選挙のためのキャンペーンのようだと非難した。チカリンバ PP 広報官は、なぜ植林事業等の優先されていない分野にも何十億もの予算が配分されているのか疑問を呈した。また、ドウゾンニ MCP 広報官は、本予算案は

長期的観点で欠落した「願い事リスト」であり、実際に全ての国民への約束を実施することは困難だと批判した。当地 IMF 代表は、本予算案は GDP の成長やインフレ率の上昇に伴う国内歳入の増加などの予測に見合ったものである一方、財務当局は将来的な人口増加についても対応を考えることが必要だと強調した。また EU 大使は、マラウイ政府が支援に値する基準を満たせば EU は財政支援の準備があると強調する一方で、公的セクター、特に不十分な調達システムにおける汚職が無くならないことへの懸念を示し、すぐに直接財政支援を再開するとの理解は誤りだと述べた。EU と同様、英国も、財政支援の可能性はあるものの、汚職に関する懸念を示した。マラウイ商工会議所(MCCCI)のカフェラパンジラ代表は、この予算案は民間セクターを完全に無視しており、またビジネス業界にとって非常に重要な問題であるエネルギー危機への解決策に全く触れていないことを非難した。カリロンベ・マラウイ経済協会(ECAMA)代表は、開発に不可欠な電力セクターへのより多くの直接投資等、長期的なニーズについて十分に予算に反映されていないと述べた。(5月19日、ネーション紙3, 4面, 5月21日、ネーション紙13, 14面, ネーション紙5月22日, 9, 10面)

・ 経常収支赤字の縮小

経常収支赤字は、2017年 GDP 比10%となり、2016年の13.6%より縮小したとIMFが発表した。この縮小は、メイズの輸入量の減少といくつかの輸出品の価格上昇によるものと分析されている。昨年IMFは、2017年は12.5%、2018年は9.1%の赤字と予測していた。カリロンベECAMA代表は、この発展はマクロ経済の安定のために重要であり、少なくとも外国為替は輸入手形とあわせるために必要であると述べ、この経常収支赤字の縮小傾向は国際収支の均衡へつながり、すなわち経済にとって良い兆候であるものの、農産品の市場の変動、輸入品への渴望によりこの現象傾向は持続しない、と述べた。マラウイ中央銀行のングウィラ報道官は、マラウイはもっと生産量を増やす必要があり、中央銀行として輸出開発基金(EDF)による支援等を行っている、と述べた。専門家は、経常収支赤字は国の総準備高に影響し後に現地通貨の価値にも影響するとコメントしている。(5日、ネーション紙9, 10面)

・ 4月のインフレ率を9.7%に下方修正

国家統計局は、4月のインフレ率は9.7%で、3月の9.9%より0.2%下降した旨発表した。食糧インフレ率も緩やかに下降し10%となった一方、非食糧インフレ率は8.9%となった。(22日、デイリータイムズ紙9面)

・ アフリカ自由貿易地域へ(AfCTA)の参入

MCCCIは、地元企業は競争性がないためにAfCTAへ参入する準備が整っていないと述べた。その理由として、MCCCIのカフェラパンジラ代表は、競争性の主要な要素である電力が欠けている点に加え、マラウイはいくつかの地域圏の一部だが、地域間取極の利点を活用できていない点をあげた。ムッサ産業・貿易・観光大臣によれば、AfCTAの施行は各国における国内法化の手続き等

が終わったあとであり、また各国はいくつかの品目については自由貿易対象外とする権利を持つと述べた。(1日, ネーション紙, 13, 14面)

- ・ **独立発電事業者(IPP)参入促進の動き**

マラウイ・エネルギー規制庁(MERA)は、発電に関心を持つ43以上の IPP の参入に関する議論が進んでいることを認めた。MERA のマガラシ CEO によれば、現在 IPP は単独の買い手であるマラウイ電力供給公社(ESCOM)と価格体系について交渉しているところ。IPP の参入により、約300メガワットを国内電力グリッドに追加できると予想されている。現在マラウイにおいて電力へのアクセスを有する人口は、サブサハラアフリカで最も低い、わずか9.8%にとどまる。(9日, デイリータイムズ紙, 9面)

【開発協力】

- ・ **IMF による新規 ECF の承認**

IMF 理事会は新規の拡大クレジットファシリティ(ECF)により今後3年間で1億4000万ドル(1020億クワチャ)の融資を承認した。ゴンドウェ財務・経済計画大臣は、マラウイは南部アフリカで IMF から ECF を受けている数少ない国であり、これはドナーからの信頼を示し、かつ財政支援の門戸を開くものだと期待していると述べた。新規 ECF では、IMF より ADMARC 及びマラウイ政府のメイズに関する方針の見直しの必要性が指摘されている。IMF のジャック・リー駐在代表は、このプログラムにおいて、マラウイは債務持続性の管理だけでなく、強いマクロ経済政策による高い経済成長と低いインフレも組み付けるべきと述べた。(1日, ネーション紙1~4面)

- ・ **ナカラ回廊開発計画**

アフリカ開発銀行(AfDB)は、ナカラ回廊の開発は、内陸国のマラウイにとって域内貿易の競争力強化のために非常に重要であると述べた。ナカラ回廊価値付加技術協力のローンチの際、ムヴラ AfDB カントリーマネージャーは、2017年に日本政府も拠出しているアフリカ民間セクター支援基金(FAPA)のもと、約100万ドルの無償資金を供与したと述べた。(10日, ネーション紙2面)